

幼少期からの長期ステロイド使用と皮膚再生不良を経て包帯が不要になった成人アトピーの経過 (47 歳 男性)

症例 ID：001-40-KY5 | 記録日：2016 年 5 月 29 日

1. 診断・治療前経過

就学前から喘息とアトピーがあり、大学期までステロイド外用を常用しました。大学 4 年頃には、傷が治らず浸出液や出血が続く状態となりました。両手足と背中へ広がり、カット綿と包帯を巻いて就職活動を行いました。その後も数年に一度、皮膚が治りにくい症状を繰り返しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	就学前からステロイド外用薬を使用し、頭皮にはスプレー式製剤も使用しました。
製品名	不明です。
強度	年齢とともに強い製剤へ変更されました。
使用期間	足かけ 20 年以上です。
中止時期	2002 年 11 月の治療開始前後です。
来院前／後	来院前に長期使用歴があります。来院後の使用は不明です。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
就学前～大学期	長期外用	喘息とアトピーに対し、ステロイド外用を常用しました。
大学 3～4 年頃	皮膚再生不良	両手足と背中の傷が治らず、浸出液と出血が続きました。
就職活動期	生活への影響	カット綿と包帯を巻いた上からスーツを着て活動しました。
結婚後	再燃	腿と腕に治りにくい傷が広がり、数か月続きました。
2002 年 11 月	治療開始	息子の治療とともに漢方入浴、煎じ薬、消毒を開始しました。
その後	症状の波	息子が幼い間に 2 回ほど皮膚再生不良が出ましたが、入浴治療中に軽減しました。
2016 年	記録時点	治りにくい皮膚炎はみられなくなり、局所的な乾燥と落屑、時折の喘息が残りました。

4. ピーク時期

ピークは、大学 4 年頃に両手足と背中の傷が治らず、浸出液と出血が続き、全身へ包帯を巻く必要があった時期です。

5. 困りごと

- ・毎日カット綿と包帯を交換し、寝具も血や浸出液で汚れました。
- ・皮膚状態を理由に就職先の選択へ消極的になるなど、進路に影響しました。
- ・システムエンジニアとして働く時期には、指の水疱で 8 本の指に包帯を巻くことがありました。

6. 検査値・写真・画像 ※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。



治療開始後にみられた皮膚炎の画像。

7. 経過のまとめ

治療開始後も症状の波はありましたが、記録時点では皮膚が再生しない状態はみられなくなりました。
スーツを着るためにカット綿や包帯を巻く必要はなくなり、海外出張を含む仕事を続けていました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。